

# 開館 1年ありがとうございます

まちかどキャンパス吹風舎は、昨年の5月13日に開館記念式典を開催し、無事に1年を迎えることができました。「市民の大学」「地域のための大学」「世界と共に歩む大学」を基本理念に掲げる本学にとって、地域の「まちかど」に拠点を持てたことは大きな喜びでした。この1年でひと月平均約500人の方々にお越しいただき、たくさんの方々の笑顔が生まれました。ご利用いただきました市民のみなさま、大学教職員・学生のみなさん、関心をお寄せいただいたすべてのみなさまに心よりお礼申し上げます。

## 地域と学生との協働の芽が出た

地域の方々と学生が協力して行う活動が生まれたことは、とても嬉しいことでした。吹風舎で活動する学生企画チーム DOKKO では「想て成しかふえ」や「焼き芋パーティ」、「ふく子屋」などを開催、大学正課の演習では、「和紙燈籠作り」や「学生のふるさとの『味』交流会」、「暮らしとまちを見直す井戸端会議」などが行われました。これらの活動は、学生にとって大きな学びの機会となっています。このような協働の小さな芽を大きく育てたいと思っています。

## お互いの想いを大切にしたい

一方、協働することの難しさも実感しました。地域の方々の想いと学生の想いや大学の考えが、いつも重なるとは限りません。お互いの価値観や考え方が異なることを知り、相互に理解し合うことの大切さを学んだ1年でもありました。



▲「暮らしとまちを見直す井戸端会議」、学生の食テーマに話し合いました

次の1年、丁寧な話し合いを心がけ、お互いの想いを大切にしながら創っていきたく願っています。

市民学習・キャリア支援センター長  
まちかどキャンパス専門委員会委員長  
谷口 知弘



福知山公立大学  
まちかどキャンパス吹風舎  
住所：福知山市上新7番  
電話：0773-45-3087  
Email：machikado  
@fukuchiyama.ac.jp  
発行人：谷口 知弘  
発行日：2019年7月31日

## 今日の地域の人



6月5日、吹風舎にて公庄祥（さが）さんにお話を伺いました。

公庄さんは福知山市出身で、大学進学後、福知山市に戻ってきてからは暫く家で書道や刺繍を教えたり塾を開いたりしていたそうです。というのも、ご両親の「公庄さんは筆一本で生き

ていけるように、妹さんは包丁一本で生きていけるように」という思いからだそうです。幼い頃から書道に励み、自分でも書道に向いている！ と思っていたとのこと。旅や美味しい食事、カメラ（インスタグラム）などに興味があるそうです。

他にもたくさん公庄さんについて聞かせていただいた後、大学生に求めるものを聞いてみました。「若い人にエネルギーを与えてもらって、その分のお返しをしたい」と答えていただきました。（1年：小島未来）

今回紹介する学生さんは、1回生のマートこと山崎愛悟（まさと）君です。

徳島県出身で、高校で地域と関わる取り組みをしていたという珍しい経歴を持っています。大学の教授の監修の元で地域文化を元にした観光の研究に取り組み、調査やイベントのスタッフなども行っていました。その結果、コンテストで優秀賞を取るなどの成績も残しています。彼から改めて詳しい話を聞いて、本気さが伝わってきました。彼の今後の活躍に期待です！

（1年：深川春輝）



## 今日の学生さん

# 学生団体総選挙へ行ってきました



7月6日に東京で行われた、第5回学生団体総選挙に参加してきました。今回は1,000を超える団体がエントリーをし、書類選考を突破した80の団体が集まりました。当日は、それぞれ8つの部門に分かれ10の団体の話を聞きました。その後、8つの部門の中から1団体ずつが全ての団体の前でプレゼンをするというものでした。

今回の総選挙で感じたことが、まず、ファイナルに選出された団体の発表者のプレゼン力が高いということです。どの団体のプレゼンにも聴き入ってしまいました。特に、「学生団体夢人」のプレゼンは、人に質問するなど、その場にいる人を巻き込むようなプレゼンで聞いていて「もっと聞いていたい」と思えるようなプレゼンでした。また、ファイナルに選出された団体の共通点として、活動の「目的」がとても明確でした。それに対して、DOKKOの活動はまだ「目的」が曖昧な部分も多いと思うので、そこを改善していくと、もっと地域のためになる活動ができるのかなと思いました。(1年：三輪祐介)

# ワンダーマーケット報告記

吹風舎で小学生を対象として24種類の折り紙を紹介しました。折り方が多いからこそメンバー内での共有や、諸準備に苦勞しました。が、その努力が功を奏し子供をはじめ大人の方々にも大盛況でした。我々一周年には、地域の方と繋がる第一歩の日となりました。(1年：本田勇大)

4月

幼稚園児から小学生くらいの小さい子と実験を通して安全に学べるように目薬、洗濯糊、絵の具を使いスライム作りをしました。ワンダーマーケット当日では自分が想像していなかった問題が起きたり小学生の柔軟な発想に驚かされました。そこで、小さい子に教える難しさや準備段階での情報共有の大切さ、複数人をまとめる大変さを楽しく学ぶことができ、「成功できてよかった」と思いました。(1年：橋本佑)

5月

今回はモザイクアートの製作をしました。最初は話しかけるのに緊張しましたが、皆さん気さくにに応じてくださり、色々とお話できたことがとても楽しかったです。出来上がったモザイクアートは福知山城とワンダースタッフ集合写真の2作品。見に来てくださった方もちゃんと何の写真か分かってくれたので安心しました。たくさんの小さな写真が集まって全く別の写真を作っていた事が不思議だし、感動です。最後にモザイクアートに協力してくださった方々にこの場を借りてお礼申し上げます。(1年：米村彩花)

6月



6月4日

本にまつわる  
おもしろい  
お話し

Hi Hi there!!!  
モジカのブックスターが  
やってきた!!!!



▲解説いただいた本と西村さん

この度、まちライブラリー「福々 Books」に65冊の本が入ってきました。この中で特にオススメしたい本をピックアップし、古本と珈琲モジカの店主・ブックキュレーターの西村さんに解説をいただきました。

絵本から小説・実用書まで。少し難しそうと読みにくそうだな～と思うような本も、魅力たっぷりにご紹介いただきました。

その本をどういう風に読んだら楽しいのか、その本にまつわる面白い

お話、その本をもっと好きになる話等。本に親しみをもてるきっかけができたのでは？と思います。

途中、西村さんのオススメしたい本の話も交えつつ、笑いの起こる、ほっこりとした講演会となりました。

次回の講演会はどんな方に来てもらえるか楽しみです。(コーディネーター：松井)

▲参加者さんも興味深々でした



まちライブラリー  
福々 Books のでまじこと

本の交流会

4月20日  
5月18日

春より再開した本の交流会。お気に入りの本(雑誌でも写真集でも小説でも漫画でもOK!)をもちより、思いを語るスタイルで、毎回参加者さんと楽しい時間を過ごします。

今回は子供さん連れの参加者さんもありましたので、自分が小さい頃に読んだ本の話や、子供たちにこういう本を読んでほしいね～という話を挟みながら、自分のお気に入りの本を紹介しました。お茶を飲みながらゆったりとした昼下がりで。



## — さいきんのこー —

新しい年度とともに、「吹風舎」に1年生の学生がたくさん来てくれています。

様々な企画に積極的に関わる。色々な会話が生まれる。先輩たちと一緒にイベントに参加する。新しい風をたくさん吹き込んでくれています。今年の新入生は、やりたいことがはっきりしていることに驚かされます。まちかどキャンパス学生団体 DOKKO のメンバーでない学生も「ラジオをやりたいです」「茶道をやりたいです」と目的をもって「吹風舎」を訪れてくれます。地域にご迷惑をおかけすることも多くなるとは思いますが、ご指導のほど、よろしくお申し上げます。(職員：塩見)